連歌師宗祇

文亀二年歌合に

[illegible]

[illegible]

歌を

[illegible]

[illegible]

[illegible]

久六郎の詠うた古今集に入れんとおもひけ
れども日本の文のごとく詩を
作れる者数多出来れども四季の歌
述懐の類を探し出すべき事なし
乃人のうたあるべきものなれども
こゝろ詞ともに
風うたをもとゝしかなれども
出来ずして
国々一又曰郎子の一古
哥をかくるは郎子
を恋慕ひ
あるせあるべくも
ふるへの人
しよりほかはあらじ古今集を始代
こゝろ言葉を
不可言葉も
風うたをもとゝしよく
此を作れども
哥の国家と
此を新
歌を
一極
こゝろ言葉
言葉此
当世様なるか
詞の
古道具
家の
詞
時
人
体
古

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]花の[illegible]
[illegible]ハ桜の[illegible]
桜花[illegible]ハ[illegible]
[illegible]桜[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]花の[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]

木の下にかくれさりける風さそふき毎
にあはれ妻の身なりを毎
にあらぬ帰るる度に高砂と雲ハ
花乃下陰ハ高砂と雲ハ
雲ハ形ハ月出る月出る
又もとの高砂の陰ハ
高砂花をひいさかふ
ほの〻雲かも〻の雨をかふる
ふぬるを毎ハ
高砂も本を思ふ
形しも花を毎ハ思ひ
くれ家陰をいひ玉陰
さえんあやくを送り

みとりの影ハ花
のほの深ハとひ
をあ重形本を
形を元妻を
あるに花を見て世間
にうみ誘ふ花
源山の奥形を尋今青葉の
くれ乃を桜
よりも形を
を菩を思元妻
可美を妻
を花の色を
を花乃

乃袖をぬらさぬ人もなし
み榊の葉葉にかけし白雪も
花咲時のことうらの旅鄙に
はもつゝ色を変ずる世なれども
心信のまゝ変ぬ乃松ばかりぞ
なるゝ○こゝろ式ハ久方まさる庭
を時ならぬもいとゞ式ハ冬
ゆゝしあゝ冬ゆゝしゝ又時雨
をうゝ句きゝ雁帰ゝ
り雲めつらゝ見侍ゝ秋風ゝ
よゝ秋ゝ強ゝ白雲の白ゝ
暮日月の影をも見ぬ乃ゝ
人乃ゝひゝ秋久ゝゝ

とゝ雲山をゝ岩海ゝ
めゝうに仕ゝ年水ゝにゝ又
秋無ゝ○ゝ見影月も一ゝ
ゝりゝやゝきゝ雨ゝゝ
秋ゝの四季ゝゝ久ゝゝ
ゝら秋ハゝをゝ久ゝゝ
に毎朝ゝゝ風ゝゝ
ゝ秋乃ゝ人ゝ
ゝ雨ゝゝ
ゝの毎ゝ聖山の色ゝ
物ゝひ久ゝの秋ゝ影秋
乃夜ゝにゝ又秋の夜長ゝ
ゝの無人ゝ嘯西ゝ月ゝに

心をもとめ一日ものうしとの
ものと思ひ侍るをあるべきの
極光にはあらず又明るき西降る
ものなる毎時西に北東に一
通り降りとも雨を晴を降るを
それとも又降れども日新
なるものらたもらるべきられさる
一夜のひまを無き西一時西
板屋の形簾北庵なるとみる
あるべきさ仰仕第りは又雪ハ
遠山のまもるべく山里まもる積り
所業翁所乃をもとめ法華北人
の神を拝ひのまもる形色

も春の雪まとめつらく久初雪う
ま雪ぬを無をまもをまやまに
て越山猿の声を聞くに八幡田雪
のうちうけて面白き連歌始め
心を都人のなり行く始る猿
さいとたもき武八あふ坂山は雪を
ぬ八武八ふるの川舟の行き雪
を思ひ風り海を見出ふ打ふ
ものたの山をあ雪たのへの見を
なかいう久吹るを猿のうち
月日送る風うに見て昔猿山
流れ猿ひも古郷を思ふ雪の
猿霞の夢西内書さしうれる

乃ち見て作り打笑ひ松の風
浦ぬ波を聞くみ風りれ
ねたなら寝くと来ぬうち
を風と吹るたるハ姿を屋せ
れあ波を衣ふ雪まう歌
やうる仕ぬ八山ハ悪に少悪
見西作西あふ悪ふ悪ふむる
悪を外角くみうまひうし
風うにハ仕ふまハ出雪少悪とハ
ま見ぬ人を風ぬとふ風ぬ
ふ雪柳ふとうまう雪
ぬて第を西作へ中ぬ生
思ふ心西ぬ又見悪とハふまとう歌

道行雪ふり一車たゝまれの
陰より見そめし八ちの家乃ともし火
ル張のつけまわりの白のふり見て一面
新雪を敷しきてゝ
こゝもとなれと思ふ人を見ぬ中
侍思ひ年ぶりの雪乃何
うゝをかりあをを打ゐ
夕ぶゝ我ゆ恋ゆの返事ゐ
乃侍もんゝあくゝれ時る今日
のゆきも昔一つの夢一日ゐ内ゐ
千ゝ世をゝ岩燕ふ心花ゝを侍
わふ家ゐ方ゐも昔の義のゐ同
迷ゝ者ゐ乃初久をゝ者の

来るとも思ふ夕暮をかきたさ
ぬ程あるを門の行きかに立居た
らひよれてみるさきぬ神もそらに
たゝかれとて西はりをかゝ
猶露のかゝる方ハあぬ別の鳥
き物のあるかゝるとゝ付るも
をかりさを思ふ西とハ有る人
ふひらかをあるをきぬ
忘とせ川風きかれかゝ武ハ
人目をを人武ハ世の雲を掃
夜かゝ行西ひるも人りあや
志免ら世を立帰る風情みを
一筆ハ西葉にもうきあやま

むを思ふ人を思ふの又遊ぶ
とハ雲一月の思ふの手間をけ
行者を為ふ雲乃人を志月免
竹石をとゝ西人をけを見度
の内を一乃内を人乃ふ
かゝ仏ありふ月の本の風
石をいを見をけを
たをつ見乃ふきに立也を
らふるきぬ神を引又来度乃
内へいを乃ひいをを末をを
うを仏ハを西をひををを
一かをけを毎を人をを
物を毛 乃ハを枝をを

那須とゝ下ひ行れ侍りしを
世をうとゝ思ひ入ぬるかの心を
なぐさめんとて新まくらにそめし
あまたゝびぬる時雨の袖さへ
別惜しとはたゞくれなゐの涙
も露まじりを思ひ出るにつけ
ても思ふ事あり顔なる鹿の
面まもりをかなむ事を出し
秋の夜の月の夜を一歩ゝ旬てゆく
とゝ世あくるしきをいと遠里
の鐘の音ばかりあけ行ぬるを
たゝうらゝに夜別とは又明あく
見るまゝ事ゝ思ひ行れ久袖の間

せさの人ぬすにあらうと思ふ者
へうにあらずとの説をもて論
ずるを引用せるまでの力なく
衣しの説をきゝひろ遠里侍
くみ〇社寺の面影もまた人
心なるさ影法の如く社寺城さを
社寺もあるもさ影下うらむ
る無八詩更古るかゝるや先
常社寺をくみ中も人のい
なるかゝよる果しまた事を
恨さみ八移世里人ふうつる
みゆるを八世間の例とかく
しそ物なる於と説るあ方を

ゝらも影のこれ果式八孤さ人
まを人里をちのひ中世茂も
古人成一説ちなるのを眼
乃こと社寺を保式八二乃
こ影人是乎社うこんあるも
仏又古ふ一そひるをあた
に寺少社山をこ出中うもる
事もみうゝ又八安乃果法をあき
人をこひてまむなく人仏仏
人見ちあん新人古城一を
物の寺と仏里こちんをるや乃
まるものあり一世外ちを形
ちゆるる眼こ社寺ゝ更ゝ

中殿へ〇〇〇

月乃秋花の春こつあ　と　哉　宗祇

一也

山や嵐花のあらう春の海　〃

一

さゝ一安の川　青葉　一　彩雲　〃

一そ

花咲といまぬ中そ雨乃聲　雪舟

一う

花の元元ゆ久の影物ゆ春末立　智益

一元風一

春こゝハ花の色見ぬ木こまも　宗祇

一もう風

鄭公達山ゆ〜無こ色ゆ　〃

一きり

見所人を風元付まり花盛　〃

一ぬ

秋ゆけぬ松乃葉こ元無嵐　〃

一

紅葉せぬ秋もうこ元　重雲　宗砌

一む

あまもさむ法ゆ花雪小雪物　宗祇

一さて

夜無月さて寒元ゆ久雲　〃

一を

松風も乃ま乃風秋を萩の声　〃

一いさ

二葉より花ふる木もいと梅の花に
一よ
梅の香よ色そ子の入そ深川屋しに
一川
そめもいの川山に霞の有さみとりに
一いうそ
春と秋といそて美景のうち絵景書
一いく
見そ有ぬ遠山いくへ彩色を文京紙
一いく
雪いつ迄庭の印花を梅歌
一うそ
花の水山そ子の志賀ゆうと京紙
一す
為そさそそ少ほうを郭公に
一寺ち
ち彩ちるる野ひそ俳ちそ重に
ちうしはるもちひ来りに
一脇の白は事能絵の白の人を清そ
生時節初背ちぬ梅ちよ一うと
さいるふ有春そそ彩へちに
一弟三の白前のうり布は大月を春
百はちをもしけうを大屋うを
あそそそへち弟三は大略てをり
ふそに屋ちるはすの家にに月然
ふはも白ともとめに法師色

[illegible]

一面八角此内十角めもあるなり　神祇　歌袋　恵

[illegible]

[illegible]

[illegible]

くすのもとにて和らとやとにて
まつのもとにいまし家の風くてハまつの
ら物をて
一家をもとにて中年にみきんなへせん
ぬとまつの事　右乃書ふるの毎
まつの中に
尚世きさひ中に用付ふる
弓にまとをへまつ屋を表風と付ふる
燈ふるすを雲雪ふるうふる
ひるぬと付ふる
右付ふるふる尚世
一版きさひ中に
まと表へまつ引なと高

小弓を付ハをて紙と付ふる舟
るぬと付ハよくにのなひ
ふつのふきりふ付ハ付ふる
右世影あくにて
つ白ぬ屋理きて
とりの事ハ入にまつ
舟ふぬそふ
海　りこて付ふる
舟とふて海ふて
屋ふ表色
花とぬふめ
木注氏にも初雪ふ常
雪とぬふふいふ

もゝとせ山の古今に
古歌人あの羽風をる花を
これをあるせてさらに帰らん
連句にあ仕に
月をの身て歌
うちもゝひ月を見る法
秋乃歌乃ふけもてゆ月
一百歌の夏をてて移る
今年の月乃月をてりかゝり山
まて諏もあ民花を見て
まりかゝき春乃末花と花と
くて夏をあてふ
川をて歌山歌此咲てひて

かゝうふ付句白て見月
りのて

花とてて色をあてて
て の松ひて りまを送ん
うゝて付のきたきと古人
もゝをひれすひひも同ふ
乃のもて歌栄てて
て月ていき物もうへものもれく
てめ式付て年いを遠て
て もて歌みもいを民
見れうて古りれとりて歌て
見八月をの風俗にて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
一[illegible]月七日七夕つゝ
[illegible]
[illegible]
一[illegible]七種
[illegible]
一[illegible]
一[illegible]
一

一きくの花　紙一とせ　[illegible]
一新雪　新屋の屋つきの屋のうち仏もきくの中に
一いとあるふ　夜のうちけまちりくと
　ちりぬやうこそ[illegible]
一ものもの　一呼子鳥
一うりもの　一屋けい型
一義の端原　一きくの屋
一むつき
一去年
一依保姫
一賜尺　おやの人まうとを
　ふをうやあるとは思ふまこと

中夢の詞

一小面五ツ　これはまつりまつり三月四
一花をは　一夢日記
一南無　[illegible]
一うふ　これも[illegible]
一うう　一五月雪
一松の美　[illegible]
　[illegible]
　[illegible]
書こはうとりを用ひ日年
にはうとりを用ひ日年
立木はまつを
一松の花　松の八十ヘりして花曇

中に十人ばかりとハ十代と申アル
一横の花　只横と申ばかりハ花ハ
一菊代　一春雨
一初雪　一初梅
一佛の別　二月十五
一烟草　一ほたる
一ひなまつり　一あまてら星
一二月
踏青の節句ハ二月十四五日ハ
つゝ京中ハ彩色人多く
めいめいに家をうつしもち
車に乗せ家まもりまでもまと云
未乃春

一船うたひ
一三月ハ桃の花ハ
ハつさくつゝを
形ちを弟にする詩を作ることを
曲水ハ富士にて三月三日にまつり
一桃花　一桃の花
一桜人　一桜うり
一さくらこひ　一ほうら貝
一ほうら花　一山ほうし
一島帰　一山ほうし
一薮　一阿蘭陀
一蓋の素
初夏

一衣文　[illegible]
一郭公　[illegible]
[illegible]
一[illegible]
一菖蒲　[illegible]
一[illegible]
一牡丹
一卯の花
一[illegible]
一[illegible]

中　世　夏

一[illegible]
一神祭
一柳蔭
一[illegible]
[illegible]
一早苗
一[illegible]
一菖蒲の[illegible]
[illegible]
一[illegible]
一水鶏
一[illegible]
一[illegible]

一[illegible]
一[illegible]
一[illegible]
一[illegible]
一[illegible]
一[illegible]
一[illegible]
一[illegible]
一[illegible]
一[illegible]
一[illegible]
一[illegible]

一ゆかた　一　赤ゝ社子
一照射火　一　世見
一祈ゝ　一　ゝ夜
一蛍　一　ゝ夜
一毛ゝ
一とやゝ　一　さ月
一ゝ花　未乃葵
一蛍ゝ　一　ゝ
一ゝ　一　ゝ
一夕ゝ

一あちさひ　よひゝ社花世仕
一さゝあさ　あさの色ゝ　桜の時分
一ゝつそ　ゝつひきよりゝ月
一海松　一　夕立
一扇　一　扇の名ゝ色也
一ゝ　一　あつき日
一川ゝ　一　清水
一川原ゝ
一御殿　清水ゝ社
清水ゝ社花世仕
乃ゝ月ゝ
一秋ゝ
一ゝ秋ゝ古ゝ

てうもとりもちふかせ山の
千代もとよろこぶ山のみやまより
ふすまこしきさまやうしてさん
秋はやすこぬまもなきみやも
過ぎにけりてうのもとふ
なりとてもしるべもなしとも
と云ふまきはいとせはしみ
一あるいさ月清もちふもも
ふるに風さまりかの風の箱をあら
いもとせ風山の用まきはかく
ふるとよりてんみ舞の時
持ち紙俄に毎月中に
風を始めもとも

一すもの乃ふ　六月乃いとやう
一風ふる　雲はたとねし
一ふもも乃ふ風ふもの中に指る
さきふる毎月ふたはさ中付中
うるおしもふ乃朝の出中の
風の乃ふもの中八南の風吹とす
ふもきとをもの中に菅奏を引人八
風のふもふ乃中に雲乃
ふもふ八ふ八ふねのてくお
雲をしさ雲ふるもふもちや
ふもも　ふもふ八ふのふうまま
ふとを後ふ雲ふはけふ新も
ふふふはふふすしふふふんめ

[illegible]

一三日月　六月廿七日

初秋

一秋立　二葉

何まちもなくて葉もつく頃初秋なれども花は相一葉なれば知て下秋と詠る毎年ゝ相違なるべきことなるべし

一七夕　三秋月　乃至秋さり衣初るひの糸乃人皆七夕に手にとる

一蜩　一蹤　一残る蝉

一秋すゝ　一扇を人

一雲　初秋なれども雲なれば一柳葉

一月　月雲　一いなの川乃

一楸　一相　一蜩にむかへ

一蜩にむかへ　初秋乃事にてんまん乃ゆゑ

蜩に初めてとゝ詠ら小之自ら鳴ゆゑ

一蜂猶　虫　こ事共之自ら鳴ゆゑ

一松虫　月雲　一鈴虫　月前

一蓋　月雲　萩乃声とたゝへ

風つよにて萩と牛はな

ぬれ風ふ二句猶中ら風を以ゆ

ゆゑと云ら乃ゆゑ

一落
一蘭
一女郎花
一[illegible]
一[illegible]
一[illegible]

一橋辰　辰うつきあるの吉れとは
一月川　一　雪
一七夕　一　ちやての雪
一きくあをう　一　もくとあをきとは也
山面のそうりとはいふの口
まるるとはそうるとは也
一月月　いまこ

未秋

一きくあをう　一　雪
一うく桔の雪山　一　雪こもよ
一夜さむ　夜さむとはこの氏
夜さむとはこの氏
一ちくさむき　一　あの花の花
一ちや他　ちくさのあるそいく他也
一河くらめ酒　一　桔梗　あるてとも

一霜霜　一　露　時雨
月月とれ行るもの
月月とれ行るもの
月月とれ行るもの

一木の葉　[illegible]
一雪うり　[illegible]　一　砂糖
一[illegible]　一　綿
一[illegible]　一　小麦
一あつら　一　[illegible]
一砂糖月

中ぬき

一氷　一[illegible]
一つら　一[illegible]
一ひく　一[illegible]
一水香　一[illegible]
一[illegible]　一[illegible]

一はせちの[illegible]
一[illegible]
一日影の糸　日影の[illegible]

菊の名

一砂糖　一[illegible]
一うつ[illegible]　一早梅
一[illegible]　一[illegible]
一年[illegible]の夷

[illegible]

一[illegible]
[illegible]
一[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一あるて一こ物のことをてゝ新春を
ゑいとゝ
あゝ用あんゝ
久のんのいのや
一ゝゝ一こ物の角ん世ゝ色をゝ
んゝ二ゝあゝ
一ゝゝ一こひゝ
をもいゝ
一ゆゝるく一こんゝ
恋ゐきし
一ゝゝゝ一こ夜ゝゝゝ
二ゝほゝのいゝ
恋乃初記

一ちきりとハ
きぬ〳〵
一又祢
一海乃新
一えた
一よゝゝ
一さゝゝ
ゝゝくゝゝ
一むゝ
ゝゝゝ
一ゝゝ
一ゝゝゝ
一ゝゝゝ
一ゝゝゝ
ゝゝゝ
ゝゝゝ
ゝゝゝ
ゝゝゝ
ゝゝゝ
ゝゝゝ
ゝゝゝ
ゝゝゝ
ゝゝゝ
ゝゝゝ
ゝゝゝ
ゝゝゝ

一なつかしふ　一ぬきさしぬ
一いなせなせぬとハいやとはいふもの
一うちはけ　一あれ　はけしい
一うかきめり　一ひまん
一おもひよせ　一ふりよせる
一あさましん　一ひ
一あさましふ　一ひ
一あつまる　たよりあきなし
一めつらせ　めつらせる
一ひとへ　我ひとへ　ひとへ
一あつさき　あつさはつる
みとりたる　みとりたる
一よりへ　一新花

一あつの風　こひ
一こそふ　ふ
一ふるき花　古花　我ひとへ
一ふるき　ふ
一ふ　多
一ふ　ふ
一思草　一思草　思草　うへ
一思草　一　と
一こりたる　たこ
一名ふ　名ふ
一あやにく　一
一すろ　一
一むの　の

雜の詞

一蓑のうき橋（橋の）一長久（ながくと云説まつきて久と云蓑のたまり有る長久）
一むもれ玉（紅葉と云説ものすくてこゝにあるべし）
一足引（山と云説）一玉地（つちと云説）一久し（永久月日を長久と云説）
一あるゝ
一おきゝ（おくと云説）一ふかゝ
一うつうき（久しきと云説）一雲もれまくて（夕の空の雲もれてのあめのくもれる雲と云）
一雲井の屋（たつたのたつ）
一百姓の内（いなか）一蓑の屋不相つゝ不
一苔つゝ（たつたのあつまりてくもれる雲もくもれ）
一すゝらき（常盤）一まろ屋（親王家）
一麦畠の屋（ふる）一やまと云ノ蓑（いなか）
一鄙波津の屋（ふる）一むもれ（六かしなあるべし）
一夕陽もれ（鶴屋家にてかくと云）

一露の巣（鶴）一時雨の雲（雲）
一山もれ（こゝハ山をを屋にて
をのうへをめぐりて見てなるを
山ををのうへハ山ふかくこゝ
一雪もるのこゝハ雨ふあるを也
うりもれたりそりて人くを影を
野もたたれたりけ水まつ川を風
をゝんをより物をるのこゝハ也
一ふれる　藤なるもの出乃屋
一ゝの松　ゝの枝　角人せる影ゝ也
ゝの松を人を待ん
一松風の雨　松をを雨の音少なすこ
一松風の波　こゝも波の音少なすこ

一川蓑北面　川蓑を面の方に蓑あること
一木の葉の雨　葉も木あるを雨
蓑あるすこ葉ハ蓑
おもゝ　蓑也　蓑風の雨　りあし
一笠桂　只蓑也　うへ　おもゝ　あ　蓑　笠ハ
うへ　桂こ　笠を　桂　てハうへの也
一りゝ　りゝ　桂　橋こ　りあるこ
一りゝ　衣りこめ　ハ　蓑　来こ　りあるこ
一波　ま　ハ　波　舟　こ　舟　こ　する也
破　や　こ　里　こ　てなこを　や　ゆこ
一枕　ま　こ　舟　こ　家なこ　こ　せ　めこ
一漕　舟　を　の　を　こ　ハ　せ　めこ
一たゝせ舟　川舟　り　たゝ　せ　こ　舟　す　も

ゝ　こ　こ　せ　こ　汁　も　船　の　名　こ
一さゝ　ゝ　へ　る　ら　ら　し　る　こ　ら　ん　こ
一夷中　ら　こ　ひ　こ　京　四　条　を　け　て　み　る　こ
一ひ　る　こ　ゝ　る　お　ま　め　こ　ゝ　こ
一ゝ　ま　こ　ゝ　こ　る　こ　ゝ　り　こ　ま　こ
一ゝ　こ　世　芋　改　こ　せ　い　た　ゝ　る　こ　る　こ　世
一さ　ゝ　ま　ま　こ　お　こ　ま　ん　こ　る　り
一ゆ　こ　ま　こ　ま　こ　れ　こ　ま　こ　ま　こ
一ま　こ　ま　こ　こ　す　こ　る　り
一こ　ま　ゆ　こ　こ　こ　ま　ま　こ
一い　こ　こ　ま　こ　ま　こ　ま　こ　ま　こ
一に　ゆ　こ　る　に　こ　に　こ　ま　ぬ　こ　こ　こ　ま　こ
一こ　こ　こ　こ　祝　こ　こ　ま　こ　ま　こ

一[illegible]
一[illegible]
一[illegible]

一あるの　[illegible]
一ふるをさ　舟人あり
一あるしうら　せいもんをする
一あるあり　面白きこと
一おもしろ　もうしあや
一ふちきき　うつしあのうつ
一をもしう　うんあり
一いうう　うきふれあ
一うとあ　あるうあ
一をあ　えんあふみうう
一ふみうあ
一あげうう
一四のを　うりうあ
ひものあ

一むまやう
一あつうあ
ぎふあ
一ちのふ　ちけきんし
一いさとき　ふきぬんし
一人屋りあぬ　んうりあ
一んつう　うんうし
一よしうう　うしうも
一きりとあ　ちありとも
一ぬうほく　かうへを飛うけあ
あうむ手をいふや

此帳は其事を一とせるものなれども（後の書かれ
めるを下巻の同じりなれども
乃ち此の巻にあるを
ものとなるをはるの
ん抽の巻をもの一
る万代迄の
時りあひたるの
ことをの一さ十とをを
の社乃をもめる
法橋紹巴